

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月31日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900267
法人名	有限会社さつま福祉会
事業所名	グループホームさつま苑 A棟
所在地	鹿児島県伊佐市大口針持1235番地8 (電話) 0995 (25) 2000
自己評価作成日	平成26年10月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年10月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校・郵便局・駐在所・病院等が半径300mにあり、家族と地域住民との交流が確保できる環境にあります。同敷地内に温泉施設があり利用者の家族知人にとっても癒しの場として、ゆっくりくつろぐ事ができます。家族・地域住民との定期的な情報交換・勉強等相互に研鑽する仕組みづくりと共に、利用者に対して環境の変化が少ないよう工夫しながら、イベントなどを通じて日頃より交流を図り、なじみの関係づくりに努めています。また、利用者が地域の中で暮らし続けることを、大切にしたい理念を地域の方々に理解してもらえるよう、家族も含め校区コミュニティ・老人会・地元小学生・保育園ボランティア団体などと、伊佐市へのさつま町・さつま川内市よりの玄関口として針持川や、さつま苑前の国道に花いっぱい運動を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

268号の国道沿いに位置し、辺りは田園風景が広がるのどかな地に建てられたホームである。隣接して、温泉施設もありホーム自体も温泉を引き、利用者は日常的に温泉浴を楽しめる環境にある。食事の時間帯は季節の食材を使った食卓を囲みながら、職員と利用者の会話が弾み笑い声が絶えない楽しい時間になっている。刻み食の利用者には盛り付けた状態を目で確認してもらってから刻むなど、利用者の食欲や視覚を大切にしている。殆どの利用者がトイレでの排泄の自立が出来ている事は、日頃の職員の声掛けや利用者各々の排泄パターンの把握と職員間の連携がしっかりとれたケアの結果であり、家族のオムツの経費軽減にも繋がっている。非常災害時に向け防災ずきんや、居室のネームプレートに利用者の誘導手段になる福祉用具を明記するなど誘導や安全な避難対策への工夫をしている。ホーム行事や地域のイベントへの双方での参加や、ボランティアの受け入れなど、地域との交流を今後も継続し、家族と地域とホームの三者が一体になって利用者の安心な暮らしの支援に努めているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を踏まえた理念を掲げ、地域の中で利用者が家族のように生活できるように理念を実践している。	開設当所の法人理念を根幹に置き、職員全員で考えた理念を掲げている。理念は玄関や食堂にも掲示し、利用者も共に唱和する姿も見られ、安らぎやくつろぎを大事にしたケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域や小学校から行事への招待を受け参加したり、逆に苑での行事へ招待したりと交流を図っている。	ホーム行事の敬老会には踊りのボランティアの受け入れもあり、地域住民の参加もある。近隣から旬の野菜の差し入れがあり食卓に並ぶこともある。運営者は所有地の竹藪を造成し公園にして地域の交流の場に提供するなどし、地域にも貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症ケアの専門として地域住民の方との交流の中で支援等を話したり、グループホームの役割や認知症について理解して頂けるよう説明等している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に年6回、行政の参加もあり運営推進会議を開催している。利用者の状況報告や取り組み等報告し、推進委員の方の意見や要望を受け話し合いサービス向上に活かしている。	各ユニットから家族代表、行政、他の関係機関の参加を得て行事と合同開催して参加者の幅を広げる工夫もしている。ホームの現状報告をはじめ、行政から介護保険制度の仕組みや時期的な体調管理の情報、また有意義な意見交換の場としてサービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に行事に参加して頂き質問・相談を行い運営に活かしている。	行事に併せた運営推進会議への出席もあり、利用者の状況やホームの現状を理解してもらっている。利用者の中に生活保護受給者もいることで福祉課の担当者の毎月の訪問もあり、折にふれ、気軽に相談や情報の共有ができる良好な関係が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を職員全員が理解し日中は鍵をかけず、外へ出られる時は一緒に付添う等見守りや声掛けで出来るだけ自由に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々のケアの中で抑制や禁止語についての言葉に依る拘束の弊害には特に注意し、職員間での気付きを話し合い、利用者の自由な生活の支援に努めている。年間の研修計画にも組み込まれており、職員は勉強会で身体拘束に関する意識、知識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が日常何気ない言動の中で虐待がないか、ひとりひとりが振り返り又、お互いに気を付け注意するように努めている。職員会議の中で勉強会も行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で権利擁護について学習し、必要な時に活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に考えられるリスクや利用者の変化に伴い契約解除に至る場合も含め十分な説明を行い家族からの不安や疑問点等を聞き決定同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を明記し入居時に説明している。日頃より利用者の言動より不満や苦情を読みとり検討したり家族が意見・要望を言いやすい雰囲気作りに配慮している。又、出された意見は検討し、結果は利用者・家族・運営推進委員会に報告し運営に反映させている。	毎月の請求の折、利用者担当の職員よりホームでの日常生活が伝わるように手書きのメッセージを同封しており、家族から感謝の声がある。行事参加や来訪時の家族とのやり取りは「施設介護経過」に細かく記録され、出された意見や要望を職員で把握し改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議等で職員より意見や要望を出し話し合いを行い運営に反映している。	汚物処理用の洗い場の設置や避難用のスロープの設置の実現など、月1回のミーティング時に、現場の職員ならではの気付きやアイデアを活発に出し合い、改善に向けてサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行い、取得者については給与のアップを行い、やりがいや向上心が持って働けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の内容を職員に報告し、実践できることは取入れている。スタッフも参加できるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会の中で学習会に参加したり、他のグループホームとの交流があり相談や情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に必ず本人・家族と面談を行い身体状態・生活歴・心配事や思い・希望を聞き安心して生活が出来るように努めている。又、可能な限り入居前に見学をして頂き納得して入居して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に家族と面談し不安や困っている事、要望等を聞き家族の思いを、しっかり受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始する段階で本人・家族が必要とする支援を見極め対応をし、不可能な事は他のサービス等を提案し援助が受けれるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩とし尊敬し教わる事も多くあり、一緒に生活する家族と位置付け、互いに支え合い安らげる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子や日々の変化等を家族に伝え、お互いの情報を共有化し家族と同じ気持ちで一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から通い慣れた病院への通院や往診を受け、馴染みの先生や受診の際、顔馴染みの方のと再会など関係がとぎれないようしている。また身内や友人部落の方等の面会も多くもらっている。	馴染みの主治医の往診や、隣接する温泉帰りの知人が面会に来る事もある。ドライブがてら地域行事の祭りに出掛けたりして地元住民と触れあう機会もあり、個別支援で墓参りに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や心身の状態を十分に把握し、利用者同士が関わり支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られ契約終了されてからも面会や家族と、電話や手紙等で連絡をとり、面会時の状況を伝えたり又、家族より様子を聞いたり又、相談の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで職員の気づきや日常生活の中での言動から思いや希望を受け止め、利用者本位の支援に努めている。又、いつもとは違う言動を記録し日々の支援や介護計画に反映している。	本人の日常の会話の記録を残し、気持ちの把握に努めている。出来るだけ利用者が納得できる様に、傾聴を重んじ、寄り添うケアはプランにも反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族に生活歴等を聞き入居後も本人・家族・知人より情報を収集し、これまでの馴染みの暮らし方が、出来る限り支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その方心身状態に合わせて無理なく一日が過ごせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、1年ごとに介護計画の見直しをしている。職員の気づきや主治医・家族に意見を聞きカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。	介護記録や受診結果、申し送りノートに基づき、ミーティングの中で問題点を取り上げて職員全員で話し合っており、本人や家族の意向も組み込まれた個別性のあるプランが作成されている。利用者の状態変化を密に捉える為にも、今後は見直しの設定期間を検討していく意向である。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々に日々の様子や変化・実践を、日中・夜間帯に分けて記録し職員間で情報共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者一人ひとりの、その時々々のニーズ・突発の病院受診や外出等、家族が対応できない場合も対応したり又、他のサービスを利用する等して柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生員・老人クラブの方々に苑の行事に参加して頂き意見交換する機会を設けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医又、家族の納得が得られた協力医の受診になっている。受診結果は記録に残し、結果は電話や毎月の状態報告の手紙にし家族に報告している。</p>	<p>入居前からの掛りつけ医の受診支援をしており、緊急時の医療連携体制も整っている。定期的な往診や職員に看護師の配置もあり、日頃より密な健康管理が行われている。受診結果については、家族とホームで情報の共有が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の関わりの中で利用者の心身状態の変化に気づき看護職員や訪問看護師に伝え適切必要な受診や看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>家族を交えて担当医と話し合い苑での対応が可能な段階でなるべく早期退院が出来るように取り組んでいる。又、入退院時はお互いの情報の交換や相談をし関係作りを務めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前や利用者の状況変化に伴い事業所が対応できる最大の支援方法とケアについて説明を行っている。現在までに一人の看取りを行っている。</p>	<p>ホームの看取りケアにに対する方針を明文化し、入所時に家族に説明している。状態変化の都度、主治医を含めた話し合いを持ち職員も方向性を共有しホームで出来る最大限の看取りケアを行っている。状況内容は支援経過に詳しく記録されている。段階に応じた家族との同意書の取り交わしも視野に入れ、検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルを作成している。心肺蘇生や異物除去の訓練や応急手当の勉強会を行い又、研修に参加し必要な時に生かせるように実践力を身につけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>スプリンクラーの設置、火災通報装置の設備を整えている。年2回の訓練を実施している。防災頭巾や各部屋の入口に利用者の移動手段を記載したカードを準備している。</p>	<p>玄関の壁に防災ずきんを準備したり、居室のネームには利用者の移動手段となる福祉用具名を明記するなどし、誘導や安全に配慮している。消防署立会いの定期訓練の他、独自の夜間想定訓練も実施している。更に今後、地域との協力体制の強化にも取り組んでいく方向である。。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を行い利用者の人格を尊重し、入浴・トイレでの羞恥心への配慮や声かけに十分気を付けプライバシーの確保に努めている。	マニュアルを下に研修を行っている。排泄や入浴など羞恥心には特に注意を払い、あからさまな誘導や声掛けにならない様に利用者の誇りやプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間・休息就寝時間等、日常生活の中で提案はするが、思いや希望を自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを一人ひとりの体調・希望・思いを大切に、その方のペースに合わせ柔軟な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服を自分で選んだり、職員と一緒に選んだりし、外出時や行事の際は特におしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節毎の行事食を作ったり誕生日には、その方の好み・要望のあったメニューを作り、利用者に喜ばれている。利用者と一緒に献立を決めたり下ごしら・味見・食後のテーブル拭き等をしてもらっている。又、食事は職員も一緒に食事をしている。</p>	<p>秋には、栗ご飯や柿など旬の食材で利用者は季節感を味わいながら職員との会話で笑いが絶えない楽しい食事の時間となっている。刻み食はいったん、盛り付けしたものを視てもらってから、刻みにするなど見た目の配慮や工夫をしいる。調理の下ごしらえやテーブル拭きなど残存機能に適した手伝いは利用者の張り合いにもなっており、季節ごとの行事食や職員と共に考える献立も楽しみとなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎食記録している。一人ひとりの状態に合わせ、量や形態に配慮している。メニューは記録し同じものが続かないように支援している。好みや状態にて量の把握や代替品で支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの大切さを良く理解しており一人ひとりの力量に合わせた口腔ケアを毎食後支援している。義歯は每晚はずし毎週1回確実に薬剤による洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや声かけの工夫を行い、トイレでの排泄を基本とし自分でできることはして頂くよう支援を行っている。	入所時にオムツから布パンツに改善した利用者もおり、排泄パターンの把握と職員の適時の声掛けと誘導で殆どの利用者が自立に近い状態である。現状を維持しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因また、及ぼす影響を十分理解している。水分補給に努め食物繊維や乳製品が摂取でき運動や歩行・マッサージにより自然排便が出来るように取り組んでいる。困難な場合は主治医と相談し薬による排泄支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お風呂は温泉をひいている。週3回の入浴が基本ではあるが状態や本人の希望で毎日でも入浴は可能である。	温泉浴を楽しめる環境にあり、週3回が基本であるが希望により柔軟な対応をしている。入浴をためらう利用者には時間や職員を替え、無理強いをせずに入浴が楽しみな時間になる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し散歩・リハビリ体操・レクリエーション等、その方に合わせた日中の活動を促し安眠できるように支援している。日中も状態に気を付け休息の声かけをしている。又、不眠の方には主治医に相談し薬剤を含めた安眠策を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に薬の説明書をファイルし、いつでも内容・副作用等が把握できるようにしている。誤薬がないように服薬まで数回チェックを行い手にのせたり、また口に入れる等、確実に服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえ、後片付け、洗濯物たたみ等、出来る事をして頂き感謝の言葉を伝え役割を持つ喜びが持てるように支援している。苑の周りを散歩したり、利用者と相談しながら花見や外出に出かけたりし、気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>体調を考慮しながら散歩したり季節毎の花見やドライブに出かけたり買い物に出かけている。気候の良い日は、花壇の草取りをされたり花摘みに出られたり玄関先にて外気浴等をしている。又、本人の希望に添って家族等の協力を頂きながら自宅や見舞いに出かけられるよう支援している。</p>	<p>日常的には自然に恵まれたホーム周辺の散歩で季節を感じる事が日課になっている。季節に応じて花見や近隣の名所へドライブに出掛けたり、個別支援で買い物に行く利用者もいる。最近出来た近くの食堂に外食に行くなどして、機会をみては外出の機会を多く持てるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則としてお金の管理は家族にしてもらっているが希望や能力に応じて自分で管理をされ買い物をされたり又、お金を預かっている方でも希望に添って買い物支援をし支払いを自分でしていただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の能力に応じて自由に電話をしたり、出来ない方には取り次いだりし支援をしている。又、年賀状・暑中見舞いを書かれる等、手紙の支援をしている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や居間には季節を感じさせる壁掛けや花を飾り、温度や湿度の調整等をこまめに行い、トイレの臭い等も消臭スプレー等を使い不快を感じさせないように配慮している。台所からの料理の音・匂い・職員と利用者の笑い声等生活感のある空間づくりをしている。</p>	<p>ホーム全体が臭いも無く、日頃から清掃が行き届いている様子が覗える。利用者は食堂の窓から季節の花を眺めながら、対面式キッチンの職員との会話を楽しんでおり、のどかでゆったりと過ごせる共用空間になっている。廊下には誕生会や季節ごとの行事の写真が多く貼られており、利用者の日常生活が伝わる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関内外、廊下にテーブルやイス・ソファを置き利用者同士外気浴をしながら話を楽しんだり思い思いに過ごせるようにしている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳とフローリングの部屋がある。ベットは備え付けであるが、他は出来るだけ使い慣れた家具・雑貨・テレビ等を持ち込み一人ひとりの好みや使いやすい居室作りをしている。</p>	<p>居室入口のネームには介護度に合わせた「車椅子・シルバーカー」など福祉用具の明記があり、災害時の誘導に配慮している。思い入れの深い位牌や使い慣れた机やソファを置くなどし、個別性があり安心して過ごせるプライベート空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベット柵や手すりを取り付け、トイレ・居室等、表札等をつけ安全で自立した生活が送れるようにしている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない